

## 倉吉市幼児教育研究会アドバイザー派遣事業レポート

倉吉市幼児教育研究会

- 1 研究テーマ 「幼保小接続カリキュラムの改善と連携体制の推進」
- 2 実施期日 平成30年8月8日（水）13:30～16:30
- 3 実施場所 倉吉交流プラザ 第1研修室
- 4 アドバイザー 保幼小連携教育研究所長・元東京成徳大学特任教授 和田信行 先生
- 5 参加者 市内小学校・保育園・認定こども園の幼保小連携担当者（42名）  
倉吉市子ども家庭課・教育委員会（4名）  
市外幼保小連携担当者（行政関係者）（8名）

### 6 内容

#### ① 開

- ・研究会会長 西倉吉保育園 村田奈津子 園長

#### ② 講義

- ・「幼保小接続カリキュラム改善の視点と方法」

講師 保幼小連携教育研究所長・元東京成徳大学特任教授

和田 信行 氏



#### ○幼保小接続カリキュラム改善の視点

- ・カリキュラムマネジメントを通して、園・学校全体で取り組む必要がある。
- ・園で育てた力を小学校で発揮させる。  
赤ちゃん扱いをしない。
- ・幼保小の接続の重要性
- ・カリキュラムマネジメントとは

#### ○幼保小の教員間の連携

- ・1年生は「0からのスタートではない」
- ・幼児期に育てたい「10の姿」の共有が大切。  
小学校はそれを引き継ぐ意識を！
- ・協働的な授業の提案

#### ○アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム改善の方法

- ・計画→実施→点検→改善
- ・点検において、幼保小が子どもの姿を共有すること  
プラス主体的に自己を発揮していくためには？
- ・改善は来年度のはじめまでに。  
幼保は10月のスタートまでに。小は4月のスタートまでに。



### ③ 演習

○H30年度版「倉吉のめざす子どもの姿」の改訂について説明（別紙）

- ・「鳥取県のめざす子どもの姿」との整合性を考えて改訂  
「地域愛」は倉吉の特色として残す。
- ・学習規律の項目を削除。→全てが学びに向かう力に繋がっているという解釈

○年間連携推進計画、スタート・アプローチカリキュラムの見直し・具体的な姿の共有

- ・各校区の「めざす姿」が各園・各小のカリキュラムに繋がっているか、具体的な子どもの姿を出し合いながら確認する。

### ④ 指導・講評

- ・各先生方が具体的な子どもの姿を共有しながら熱心に話し合いをされる姿を見て、幼保小の連携がよくできていると感じた。まず、知ることが大切。
- ・基本的なベースはできているので、本日提案した方法で更に相互のカリキュラムの理解と改善をしてほしい。園・学校全体で。

## 7 参加者の感想より

- ・幼保小の接続カリキュラムの重要性について、非常にわかりやすい講義だった。アプローチカリキュラムに着手していないので、至急作成せねばと思った。
- ・校区の取り組み、今後の連携の在り方について共通認識することができ、良かった。
- ・「0からのスタートじゃない」ということが小学校の先生にも伝わり、うまく子どもたちをつないでいくことができると思った。連携の大切さを感じた。
- ・和田先生は現場をよく把握しておられ、具体的にわかりやすいご指導で良かった。
- ・何より子どもたちの成長と気持ちを第一に考え、関わり方を考えていきたい。
- ・保幼小が同じ講義を聴くことができ、情報を共有できたことが良かった。
- ・「ここまでできて入学してくる」ということをしっかりと頭に入れてスタートカリキュラムを見直していきたい。
- ・従来型の接続を見直していきたい。
- ・スタートカリキュラムがなぜ必要か、よく分かった。
- ・行政担当者の責任にも言及されたが、市町全体にどう広げていくか、ビジョンを持って取り組まなければならないと感じた。倉吉市は基盤が整っていると感じた。

